

平成20年度秋季常任理事会 第4回強化委員会報告

第4回強化委員会報告

- 1 出席者 委員長 大野 直志 (東北：八戸工業高校)
トラック主任 百々 敦史 (東海：朝明高校)
ロード主任 伊藤栄一郎 (関東：昭和第一学園高校)
徳地 末広 (近畿：榛生昇陽高校)
山本 宏恒 (関東：作新学院高校)
班目真紀夫 (東北：東白農商高校)
堀 芳 彰 (四国：石田高校)
折本 裕樹 (JCFジュニア強化育成部会委員：取手一高校)

2 日程および会場

平成20年11月28日 (金) 18:00～20:00
平成20年11月29日 (土) 9:00～12:00
フォーレスト本郷
東京都文京区本郷6-16-4 TEL03-3813-4408

3 議 事

- (1) 全アマ、全日本トラックへの出場の是非について
- (2) 海外遠征合宿及び、来年度の海外遠征計画について
- (3) その他

(1) 全日本アマチュア選手権への、高体連団体種目の推薦について 【提案】

承認

・強化委員会から、高体連代表チームの全アマへの推薦はしない。
・理由・・・全アマとJOCジュニアオリンピックカップが同日開催ということに無理がある。
JOCカップには、世界選手権代表選手選考がかかっており、どちらにも全力を尽くすことは不可能と考える。

・全アマ、全日本トラックの派遣を廃止するため、トラックの事業を新規に考える必要がある
※特に上半期での、ACC事業に高体連で参加できないかJCFに打診する。

(2) 海外遠征計画(シドニーユース)合宿及び、来年度の海外遠征計画について

①海外遠征計画の計画変更について 【提案】

(オーストラリア・ユースオリンピック・フェスティバルから台湾遠征へ)

承認

海外遠征としてオーストラリア・ユースオリンピック・フェスティバルを高体連で計画していましたが、JCFの事業として実施することになり、高体連チームとして参加できなくなりました。

代案として、昨年同様のオーストラリア合宿を考えましたが、渡航費の高騰によって難しくなりました。他の地域で実施できそうな場所を探したところ、台湾が候補に上がり、トレーニング環境や経費の安さと、トラックだけでなくロード合宿も実施できる環境であることが解ったので、高体連のトラック海外遠征を、台湾遠征に変更するとともに、ロードも台湾に派遣したい。

- ・JCFロード部会主任、三浦恭資氏に現地との折衝を依頼。時期はH20全国選抜の後。
- ・12月の全国合宿時に、三浦氏を含めて打ち合わせをする。
- ・生徒はロード10名、トラック10名、スタッフ(強化委員会)10名の合計30名を予定。
- ・生徒個人負担は10万円以内。

②来年度の海外遠征計画について 【提案】

承認

- ・年間を通じての強化策を検討し、ロード(EU)とトラック(台湾)の2つの海外遠征を柱とするともに、JCFジュニア事業とのリンクを考えながら実施する。
- ・今年度の反省から、JCFとの連絡の円滑化を図るために、強化委員長をJCFジュニア強化部会に入れてもらえるように要望したい。

(3) その他

① JCFジュニアを取り巻く環境・・・【報告】

- ・折本氏、作成の資料に基づき、強化委員会で討議を行った。
- ・08年度の反省を踏まえ、09年度の世界選メンバーの選考はJOCカップで選考する。
※JOCカップ終了時に、大会結果や合宿の内容に基づき決定する。
- ・マネエ氏の方針・・・フランス式。
強化からの要望、意見交換はどのようにすればよいか。高体連理事長がJCF理事・ジュニア部会長になっているので、高体連の意見を積極的に取り入れてもらえるように、強く交渉してもらいたい。

② みちのくステージレースへの女子参加について 【提案】

承認

- ・女子の部の存続について、女子を強化していく場は残していく必要があるので、今年度同様の予算を確保して、女子強化を推進したい。

③ 全国高体連トラック・ロード・全国合宿・強化指定選手選考会の実施について 【報告】

期日 平成20年12月23日(火)～12月26日(金) 3泊4日
会場 宮崎県総合運動公園 自転車競技場
〒889-2151 宮崎県宮崎市宮崎市大字熊野1443-12
TEL:0985-58-6543 FAX:0985-58-4560

- ・参加人数の報告 トラック37名、トラック女子7名、ロード54名、スタッフ・引率39名
合計137名で実施予定
- ・保険については、生徒・スタッフ・引率教員は全員加入する。
- ・準備物やスタッフの役割分担についての打ち合わせ。

高体連事業報告について

● GPルーブリランドの結果について

【報告】

- ・大会名: GPルーブリランド
- ・大会期間: 8月29日(金)~31日(木) 3日間4ステージ 開催地: スイス

【選手団】

監督 三浦 恭資 (JCFロード競技部会長)
コーチ 大野 直志 (ジュニア強化育成部会支援スタッフ)
メカニック 伊藤栄一郎 (ジュニア強化育成部会支援スタッフ)

選手	①野口 正則(榛生昇陽)	総合11位 1分48秒差	第1ステージ3位
	②笠原 恭輔(江戸川取手)	DNF(最終ステージ)	
	③元砂 勇雪(榛生昇陽)	総合44位 5分15秒差	
	④平井 栄一(横浜高校)	総合80位 14分07秒差	
	⑤大中 巧基(北桑田)	DNF(最終ステージ)	
	⑥清水 峻(日出暘谷)	総合69位 8分59秒差	



カナダ遠征の代案として画しましたが、燃料高騰など様々な問題をクリアして参加する事ができた、GPルーブリランド(スイス遠征)は、事前に現地入りしたこともあり余裕を持ってレースに臨むことができた。ヨーロッパでのレースを初めて体験することもあり、緊張した面持ちでスタートした。

レースが始まると序盤に元砂、笠原が落車してしまい、集団に戻ったときには、アタックがかかった後であった。この逃げに野口が乗り、ゴールでは3位に入賞する。翌日の地元紙には日本から来た選手が活躍したと写真入りで紙面を賑わした。第3ステージではタイムトライアルがあり、DHバーは準備していたが、本格的な自転車ではなく野口も順位を落としてしまう。最終日も各選手果敢に攻撃を仕掛けるが、野口の総合11位が最高位であった。全体を通して、感じたことは、事前にしっかりと予備知識や経験を与えておけば、ジュニア選手では上位を獲得することができる。そのためにはトップギヤを踏む力が必要不可欠である。参加選手は、この経験を

選手紹介時の日本選手

検討事項

- ①各チームナショナルチーム体制で臨んでいた、運営側が用意してくれた車では
- ②航空機の搬送では、思わぬ破損が起こってしまい、今回はギヤ版の破損が発生

● 日韓対抗学生自転車競技大会の結果について

【報告】

日韓学生対抗自転車競技選手権大会(学連共催事業)

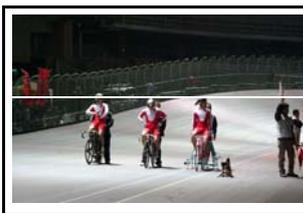
期日 平成21年11月 1日(土)~2日(日) 立川競輪場(400m)

【選手団】

日本71点 ・ 韓国69点

高体連コーチ 大野 直志(八戸工業)

- | | | |
|----------------|------------------|-----------------------|
| ①箱田 優樹 (青森商業) | 1km 4位 ・ SP 3位 | チームスプリント 1位(箱田・新山・和田) |
| ②和田 真久留 (横浜桜陽) | SP 2位 | |
| ③野口 正則 (榛生昇陽) | KE 4位 ・ PR 6位 | |
| ④新山 将史 (八戸工業) | 3kmIP 2位 ・ PR 4位 | |
| ①前田佳代乃 (西宮高校) | SP 2位 500m 2位 | 女子チームスプリント 2位(前田) |
| ②近内雅明 (岩瀬農業高校) | PR 3位 | |



ナイターでの競技実施

日本で開催された日韓学生対抗自転車競技大会は両国、高校生4名・女子高校生2名・大学生4名・女子大生2名の12名対12名の24名の選手で行われた。1km・3km・女子500mは高校生の対戦では韓国側が上回った。何とか挽回したい日本はポイントレース、チームスプリントで挽回を図り小差で韓国を上回った。前日からチームスプリントの合わせを行い、スタートの練習を入念に行った。選抜された選手なので合わせの時間は重要で、出走番手と走行について調整する時間が持つことができ効果があつた。個人の力を比べてみるとやはり、韓国の高校生の方が強いと感じたので、高体連でもさらなる強化対策が必要であると感じた。